

# PCSA アクションレポート(依存問題対策プロジェクトチーム)

平成 29 年 8 月版

## 第 6 回依存問題対策プロジェクトチーム

- 開催日時 平成 29 年 8 月 26 日（土） 午前 9 時～正午 12 時  
開催場所 PCSA 会議室  
出席人数 メンバー 7 名、正会員オブザーバー 1 名、合計 8 名  
出席者 リーダー  
辻 良樹 株式会社ダイナムジャパンホールディングス 法務グループ グループ長  
サブリーダー  
荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社 監査役  
メンバー  
望月 孝浩 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 リスク管理担当  
倉沢 隆志 株式会社ニラク 法務部 法務担当  
福島 一実 夢コーポレーション株式会社 運営推進部 オペレーション改革グループ  
若林 昇 株式会社キョウサン  
武内 好努 アメニティーズグループ（株式会社パンドラ） 組織戦略部 課長  
正会員オブザーバー  
佐久間 仁 株式会社ニラク 法務部 グループマネージャー

### 1) 保安課 自己申告プログラム マニュアル案 修正要望について

保安課から一般社団法人日本遊技関連事業協会（日遊協）の依存問題 PT に自己申告プログラム マニュアルへの修正要請があった。

1. プログラムは有効期間を 3 か月としていたのを 1 年に据え置く。  
※一方、3 か月にしている理由を述べた所、3 か月での運用も許可された。
2. 複数の自己申告プログラムを 1 種類の申込書でまとめて申込み出来る様にする。  
※入店制限と家族申告は別になるので、申込書は結果的に 2 種類になる。

また、他にも現行と異なった点の一つとして「申込書への写真添付」が上げられる。現行では「運転免許証のコピー」や確認で対応しているホールも存在する事から、申請用紙の再作成等の現場作業に混乱が生じる事が懸念される。また、自己申告プログラム マニュアルを基本として各企業、各店舗での柔軟な対応が可能であれば導入が容易になるとの意見が出た。

### 2) 安心娯楽通信 1～3号（RSN発行）について

安心娯楽通信は、リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）から毎月発行されているホール向け通信。RSN のホームページにアップロードされている。下記の各通信の内容を確認した。

<安心娯楽通信 第 1 号 2017.6.22>

- ・連続講座 依存問題「依存問題対策への政治的要請と社会的要請」

- ・ちょっとレクチャー「安心パチンコパチスロアドバイザー制度について」
- ・出向 経過報告「RSN からホールの現場へ」

<安心娯楽通信 第2号 2017.7.20>

- ・連続講座 依存問題『ギャンブル等依存症対策基本法』がパチンコ業界に与える変化」
- ・ちょっとレクチャー「ギャンブル等依存症対策は、何を狙っているのか？」
- ・出向 経過報告「社会イメージと社会資源の重要性」

<安心娯楽通信 第3号 2017.8.17>

- ・特別寄稿 POKKA 吉田「改正に向けた警察庁実務の“よくわからない”ところ」
- ・ちょっとレクチャー「ギャンブル問題に対処するために必要な『横糸』」

安心娯楽通信 URL <http://rsn-sakura.jp/anshingorakutsushin.html>

### 3) 安心パチンコパチスロアドバイザー アンケートまとめ

安心パチンコパチスロアドバイザーの受講状況をアンケートした。会員 29 社中回答 9 社。9 社合計 563 店舗に対して、第 6 回までの講習で 210 名が受講し修了証を得た。これによって 1 店舗 1 名の安心パチンコパチスロアドバイザー在籍とした場合の充足率は 37.3%となった。ただし、回答した会員によって充足率には 7.7%から 92.9%まで大きく幅があり、会員企業が足並み揃えて対応となっていない事を付け加えておく。なお、第 6 回以降の講習会は、各都道府県遊協によって開催が任せられると予想された。同時に DVD 視聴が主な講習内容になるとも予想されている。全体でのスケジュールや各店舗に 1~3 名在籍のロードマップなどを確認すべきと意見が出た。また、各都道府県遊協が講習会を開催するに当たり、非組のホールはどうすれば講習会を受講できるのかが懸念された。

### 4) パチンコパチスロ遊技障害全国調査について

平成 29 年 8 月 24 日、公益財団法人日工組社会安全研究財団（社安研）による掲題の調査研究報告がされた。報告に 1 時間、質疑が 50 分程で、質疑では、第 1 部の報告後の休憩時間に書かれたアンケートからの質問を元に回答された。報告では研究の経緯、尺度の説明がされた。

対象は全国在住の 18 歳から 79 歳の男女 9000 人で、住民基本台帳からの無作為抽出されている。回答率は 56.2%と高め。謝礼としてクオカードを渡していた。なお倫理調査は、大学の倫理審査を通過している。回答者 5060 人中 582 人が現役プレイヤーで 11.5%の割合。従って成人人口の遊技人口推計値はおおむね 1100 万人となる。遊技、公営競技、宝くじへの参加状況の結果も出されている。また、パチンコとスロットの頻度、遊技時間、負け額が調査された。

今回の調査結果ではカットオフ値を使っており、直近 1 年間での遊技、または生涯の特定の 1 年間において遊技障害を有していたかで調査をしている。(カットオフ値：このように調査対象期間等を限定する事)以前の厚生労働省の調査では、この部分をあいまいにして最大値にして調査した結果が 500 万人という事になった理由ではないかと考えられる。これまでの生涯の特定の 1 年間に遊技障害を有していた人数は推計で 90 万人、直近の 1 年間で遊技障害を有してした人数は推計で 39 万人となる。また、過去の 1 年間と直近 1 年間の遊技障害においても、軽度と中度、重度に分けて考えるべきと述べられている。また、遊技障害を有していた人に見て取れる特徴、収入や負け額平均利用時間などについては、相関関係（結果）では見て取れるが因果関係（理由）までは断定できなかった。また、遊技障害を有していた人の 8 割は自己回復、遊技障害からの脱却に成功しているとの説明もあった。

## 5) RSN への出向社員について確認事項

1. 21 世紀会から RSN 出向社員の募集について案内が出ているが、これは全都道府県遊協で同時案内されているのか。→同時ではなく、既に各都道府県遊協によって動向が異なっている事が報告された。
2. 募集が店舗あてに送られているのであれば、本部勤務は対象外なのか。→店舗勤務経験は必要条件だが、本部勤務経験を重ねているのはより望ましいという意見が出た。
3. PCSA の出向に関するスタンスはどうなるのか。個社対応なのか。→個社対応となる。

## 6) まとめ

- ・自己申告プログラム 日遊協の依存 PT 参加者を経て、要望を伝える。
- ・第 8 回依存問題会議の詳細は次回報告する。
- ・安心娯楽通信（1～3 号）には目を通していただきたい。
- ・遊技障害については、直近 1 年間 39 万人という数値がすでに大手新聞が取り上げられている。
- ・RSN への出向に関してはわかり次第、事務局から案内を出して欲しい。
- ・安心パチンコパチスロアドバイザーについて、全日遊連に非組合ホールへの対応と全体スケジュールを確認して欲しい。

## 7) 次回開催

平成 29 年 9 月 30 日（木）

午前 9 時 30 分～12 時

PCSA 会議室

以上